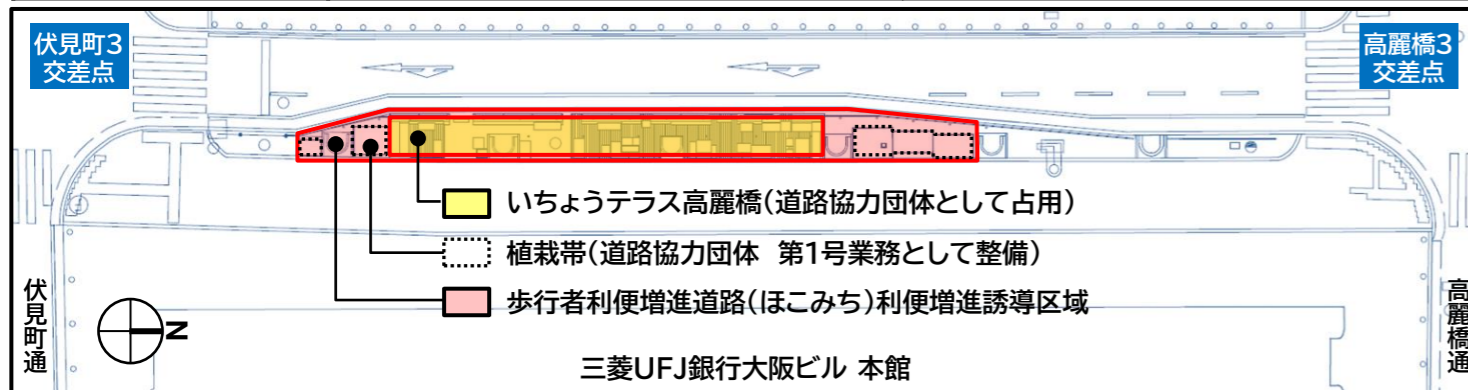


3. 準用制度 「道路協力団体制度」と「ほこみち制度」

道路協力団体制度と歩行者利便増進道路制度(ほこみち)2つの制度を活用

活用制度	道路協力団体制度	歩行者利便増進道路制度
大阪市の指定	令和2年10月2日(御堂筋3団体を指定)	令和3年2月12日(御堂筋を指定)
制度の主な準用箇所	占用主体や活動に関すること	占用場所・施設構造に関すること
	<ul style="list-style-type: none"> 道路協力団体の活動(1~6号業務) 道路協力団体の活動のために必要な道路占用に係る占用料を免除 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者利便増進施設等の設置の要件 歩行者利便増進施設等の場所や構造の基準

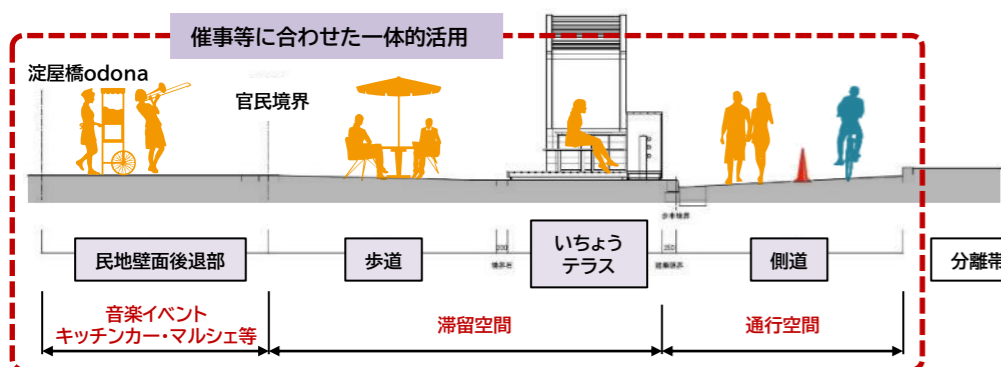


4. いちようテラス淀屋橋

- いちようテラス淀屋橋は、高麗橋と同様に令和3年度に道路協力団体である御堂筋まちづくりネットワークが本体設計(デザイン含む)を行う整備事業者を公募し、プレゼンテーション審査会での審査・選定をふまえ整備を行っています。
- 2022年4月のオープン以後、施設の維持管理活動を行うとともに、イベントなどのにぎわいの創出を図る自主事業に取り組んでいます。
- 大阪市が策定している「御堂筋将来ビジョン」では、道路空間と沿道建物とが一体となった賑わい形成が示されていますが、イベントではそのモデルとして道路空間と壁面後退部等の一体的活用を行っています。



(写真) 2022年11月に開催した「御堂筋グランピング2022」



(写真) 2023年11月開催した「御堂筋グランピング2023」

いちようテラス高麗橋社会実験 / 発行: 令和6年1月

一般社団法人 御堂筋まちづくりネットワーク 事務局
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 (株)竹中工務店内



※図はイメージです

御堂筋エリアは環境省が実施する「脱炭素先行地域」に選定されています

BELOVED STREET MIDOSUJI

いちようテラス高麗橋

脱炭素社会の実現に向けた新たな機能等を配置

- 道路協力団体として高質で安定的な道路維持管理活動のあり方を検証するため、いちようテラス淀屋橋に続き、道路協力団体制度と歩行者利便増進道路制度(ほこみち)2つの制度を活用した社会実験を実施します。
- 社会実験では、道路協力団体に指定されている(一社)御堂筋まちづくりネットワークが、大阪市と締結した協定内容に基づき、いちようテラスと地域情報案内板の整備、維持管理といった活動を行います。
- また、環境省が実施する「脱炭素先行地域」に選定されていることから、脱炭素社会の実現に向けた新たな機能等を配置することとしています。

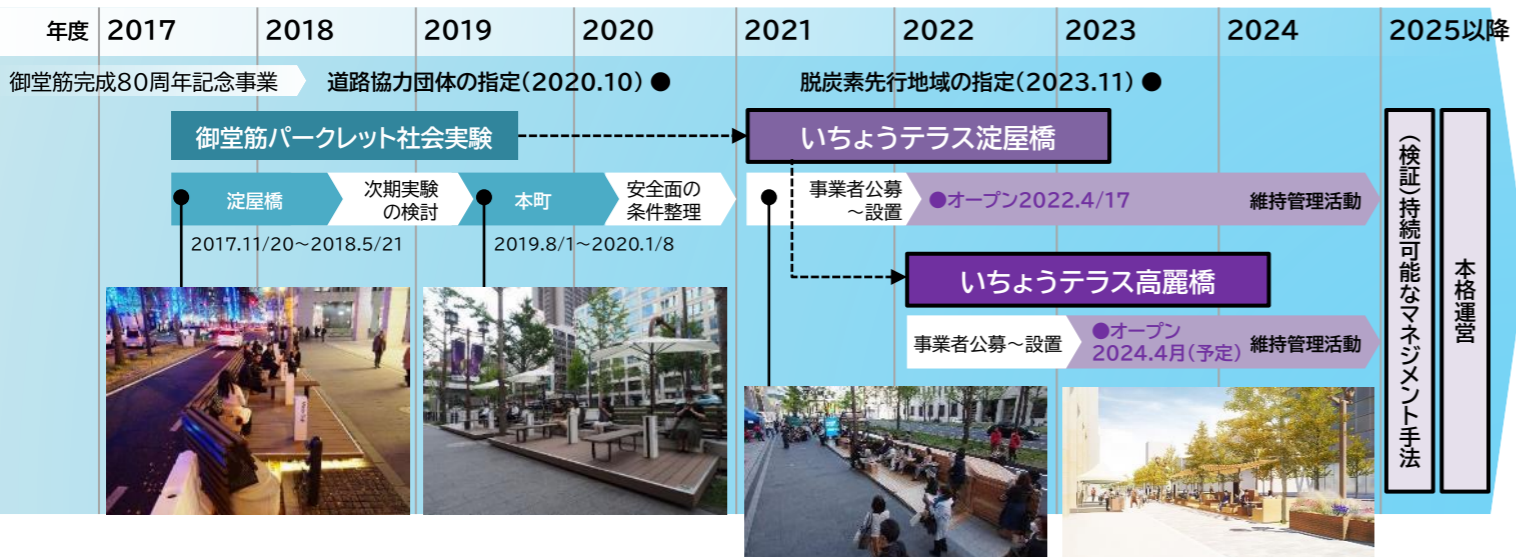


1. 実施プロセス

1-1. 社会実験の実施 [2017年度~]

▶ 社会実験を通じて安全性、利便性を確認～持続可能なマネジメントを今後検証。

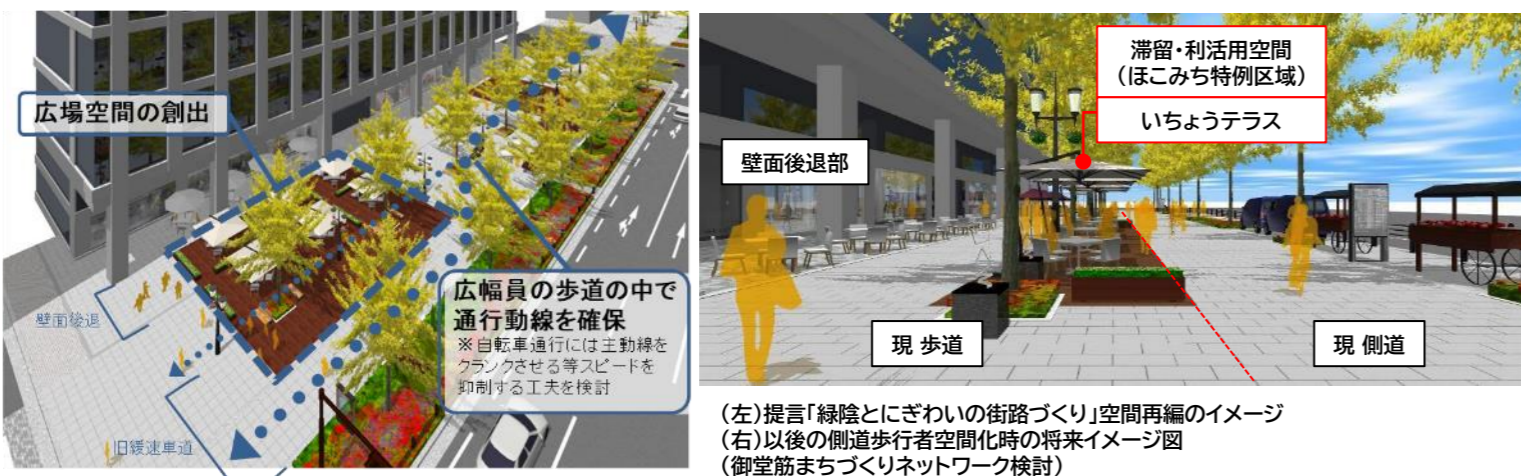
- 2017年及び2019年に実施した社会実験では、主に安全性や利用ニーズ等の検証を行っています。その結果をふまえ、2022年4月には恒久的な施設として高質な材料を用いた「いちようテラス淀屋橋」の整備を行い、以後、運営・維持管理活動に取り組んでいます。
- 「いちようテラス高麗橋」は、いちようテラス淀屋橋に続く施設で、今後、2つの施設の維持管理活動を通じて持続可能なマネジメント手法の検証を行い、御堂筋の側道歩行者空間化までの期間における本格運営の検討を行います。



1-2. 御堂筋の広場化の検討 [2017年度~/御堂筋まちづくりネットワーク]

- ▶ いちようテラス淀屋橋・高麗橋につながる御堂筋の広場化を検討。
- ▶ ほこみち特例区域とする場合の滞留・利活用空間のあり方を、いちようテラスを通じて検討。

- 御堂筋まちづくりネットワークでは、御堂筋の空間のあり方を示す「緑陰とにぎわいの街路づくり」を提言書としてまとめており、御堂筋完成80周年記念事業時には、御堂筋将来ビジョン策定に向けて“御堂筋の広場化”というテーマを追加、改訂しています。
- 2021年3月に御堂筋が歩行者利便増進道路に指定されましたが、以後、側道歩行者空間化時の将来像として、ほこみち特例区域とする場合の滞留、利活用空間のあり方をいちようテラス淀屋橋を通じて検討しています。

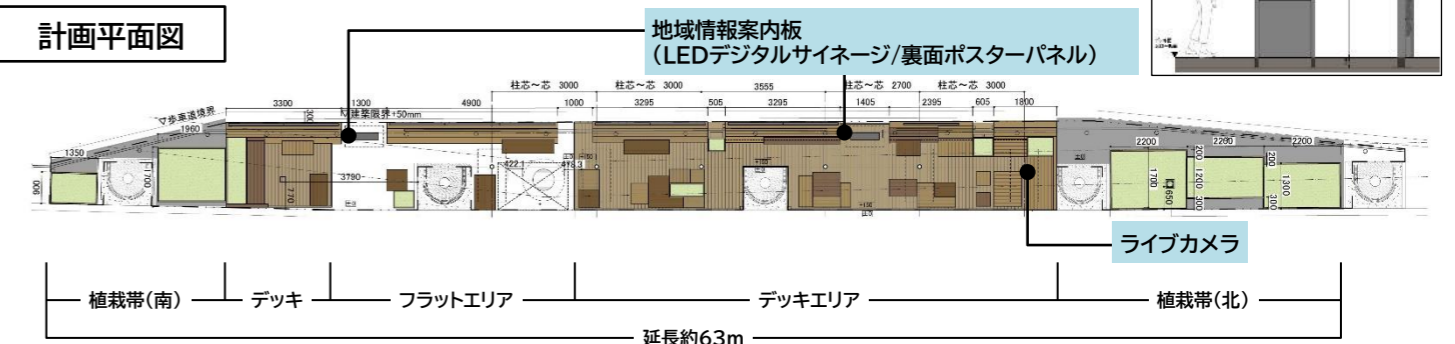


2. いちようテラス高麗橋の概要

2-1. 整備概要 [2024年4月オープン予定]

▶ 脱炭素社会の実現に向けた新たな機能等を配置

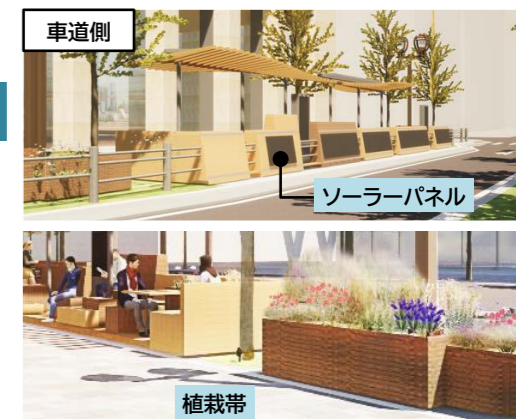
淀屋橋と同じ特徴・機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 天然木・大阪府産材(杉、ヒノキ)を主とした素材 ● 防災拠点としてのパークレット・地域情報案内板の活用
新たな特徴・機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備面積の拡大(淀屋橋延長:約15m/高麗橋延長:デッキ部分約24m・植栽帯を含む延長約63m) ● 車イス利用者などが利用しやすいフラットエリアの配置 ● 地域情報案内板を2基、歩道に向けて設置(車道側にはアナログシートによる情報発信用の掲示板を併設) ● 液晶ディスプレイ(LCD55インチ)を採用した地域情報案内板(デジタルサイネージ) <p><脱炭素先行地域として脱炭素社会の実現に向けた機能の配置></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ソーラーパネルによる電力供給 ● 街園スケールの植栽帯を南北両側に設置



2-2. 脱炭素社会の実現に向けた取り組み

▶ 自然エネルギーの利用/植栽帯の整備/天然木を主とした素材

- 御堂筋エリアは、環境省が実施する「脱炭素先行地域」に2023年に指定されています。
- 「脱炭素先行地域」とは、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けて、地域特性等に応じた取組を全国に先駆けて実施する地域のことで、本いちようテラス高麗橋においてもソーラーパネルによる電力供給や街園スケールの植栽帯の設置、天然木を主とした素材を使用することでCO2の削減に取組むこととしています。



2-3. 防災拠点としての活用

▶ ライブカメラの設置と情報システムとの連携(高麗橋・淀屋橋)

- 「いちようテラス」のライブカメラをWi-Fiを通じて災害時WEB情報システムに接続し、被災時の道路状況を遠隔でモニタリング、関係行政と情報連携を行います。
- 「いちようテラス」のデジタルサイネージに帰宅困難者受入可能ビル情報を掲出し、歩行者への円滑な避難誘導を図ります。

